

年長 笑っている顔 怒っている顔



子どもたちは 他者との関わりの中で相手の思いを読み取ったり、自身の思いを伝えようとしていたりしています。伝える手段として大きな役割を果たしているのは非言語的なコミュニケーション、特に表情となります。

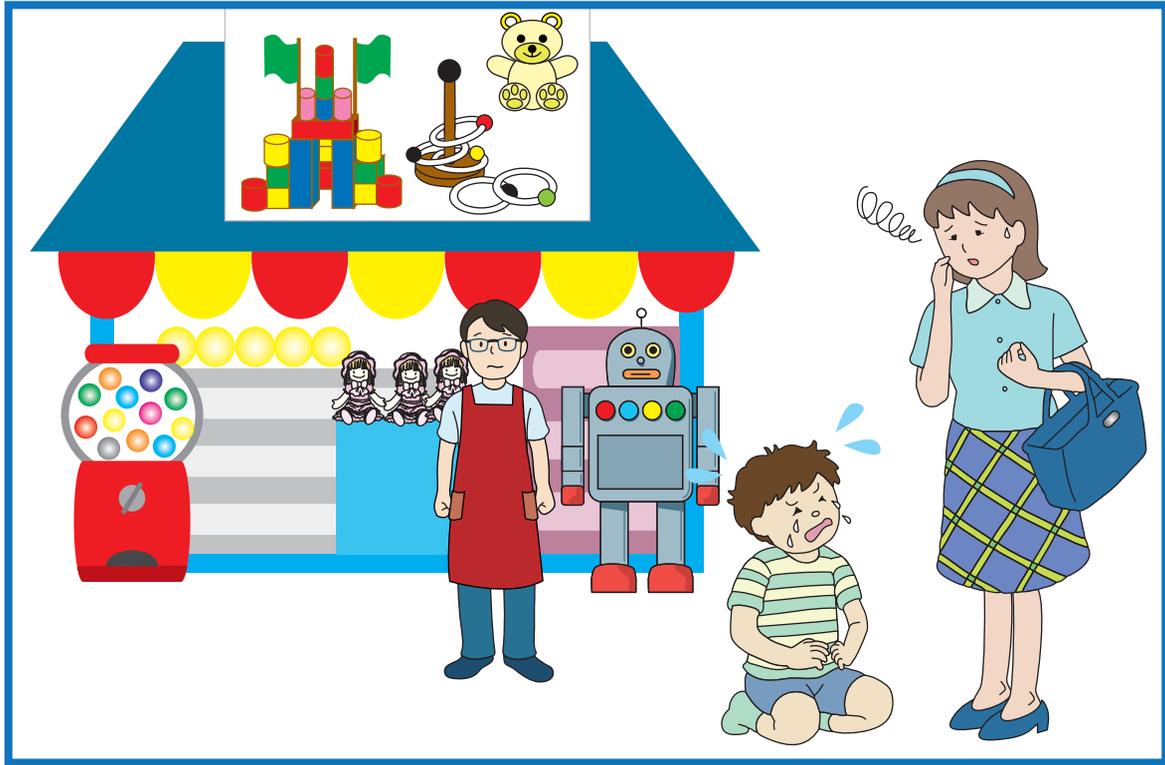
表情により人は感情に関する情報を豊かに感じたり表現したりすることができます。

年少時には 楽しい 悲しい 怒り などの基本的な感情しか理解できなかった子どもたちも年長になると少しずつ 驚き 恐怖 嫌悪などの複雑な感情も理解できるようになっていきます。このレッスンでは イラストの絵を見てどのような状況なのかを判断し、それぞれの表情や場面から登場人物の思いをくみ取り、4つの表情のカードから思いを選択し、表現をしていきます。子どもたちは自分の体験に基づき、それぞれの登場人物の気持ちを代弁します。

さらに「どうしてこうなったのか。」「本当はどうしたかったのか」「この後は、どんな表情になっていくのか」というように絵の前後の場面を考え、その時の思いを言語化し、表現してもらいます。授業を通して「思いやり」の気持ちを育てると同時に、国語の読解力にもつながる教材です。

おうちでも「うれしいこと」「悲しいこと」様々な場面で他者の気持ちを考えることをさせてあげてください。また叱るときにも「今、お父さんは どんな気持ちだと思う？」などおうちの方の表情から気持ちを考えさせるなどしていくことで思いやる気持ちが育っていくことでしょう。

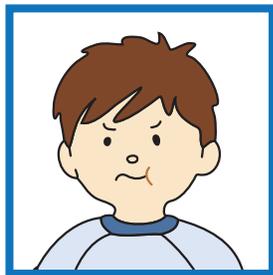
C ^{わら}笑っている顔 ^{かお}怒っている顔



^{うえ} ^え上の絵をみてください。

- ①なにをしているところだとおもいますか？
 ②おとこのこは ^{なん}といっているでしょう。

おとこのこのきもち ^{した} ^え下の絵のどれとおなじだとおもいますか？



- ③おうちのひとは ^{した} ^えどんなきもちでしょうか。下の絵からえらんでみましょう。
 どうしてそれだとおもいましたか。

